

## 彦根愛知犬上広域行政組合の考え方

### 1、 事業者の参入意向について

参入意向アンケートを行った2事業者ともに「参入意向あり」との回答であったことから、好気性発酵乾燥方式による事業実施は可能と考えます。

### 2、 固形燃料の需要先について

参入意向を示された上記の2事業者から「紹介可能」との回答を得たため、民間事業者による運営委託を想定した場合には、固形燃料の需要先は確保できる可能性が高いと考えます。

このほか、需要先アンケートを行った108事業者のうち、1社から一定量を受入可能との回答を得ているところです。

### 3、 事業費について

好気性発酵乾燥方式の事業費は、当初の想定を大幅に上回り、想定外の結果でした。この理由としては、固形燃料の成型にかかる費用、寒冷地対策費用、臭気指数費用などが挙げられますが、いずれも現時点では情報量が少なく、削減できる可能性があると考えます。

### 4、 二酸化炭素排出量の削減効果について

焼却方式に比べて、年間40,985トンの削減効果が期待できる好気性発酵乾燥方式は、環境負荷軽減の観点から非常に意義があると考えます。また、国が宣言する「2050年カーボンニュートラル」の取組にも沿うものと考えます。

### 5、 スケジュールについて

好気性発酵乾燥方式を採用する場合は、現時点で採用を決定した場合でもR16年度後半～17年度の稼働開始となる調査結果であったことから、現有施設の延命化にかかる費用が別途発生することになります。そのため、彦根市、愛荘町および犬上3町の協力が不可欠であり、合意形成が必要であると考えます。

### 6、 まとめ

本調査では、焼却方式および好気性発酵乾燥方式ともに、非常に高額な事業費となっており、いずれもこのままでは財政的に捻出困難な状況です。その中で、好気性発酵乾燥方式については、本調査で示された費用から、さらに削減できる可能性があるため、引き続き調査研究を行いたいと考えています。

また、二酸化炭素排出量の削減効果においては、好気性発酵乾燥方式は非常に効果的であり、これからの時代のニーズに沿うものであると考えます。

一方、事業安定性においては、好気性発酵乾燥方式は現時点では不確実な部分が多く、実績の多い焼却方式が優位です。

このことから、好気性発酵乾燥方式について、①費用削減のための具体的手法、②固形燃料需要先の担保の2点を中心に、さらに調査研究を進めた上で、焼却方式との比較を行い、処理方式を判断したいと考えています。